



六本杉

令和7年3月4日

学校経営報告書報告号

八王子市立いずみの森義務教育学校

学校便り

令和6年度 八王子市立いずみの森義務教育学校 学校経営報告書

八王子市立いずみの森義務教育学校

統括校長 中嶋富美代

令和6年度の学校経営について、年度当初に示した学校経営方針の重点事項を中心に、学校評価結果等から点検・評価した内容を以下にまとめます。今年度の成果や課題を踏まえ、次年度も全教職員一丸となって子供たち一人一人の可能性を最大限伸ばす教育に取り組んでまいります。今後とも、本校の教育活動への御理解・御協力をよろしくお願いいたします。

(※保護者による学校評価結果については、学校だより1/24号をご覧ください。)

1 今年度の取組への評価

(1) 重点目標への取組に関して

① 一人一人の可能性を応援する指導の充実<登校支援、日本語指導、特別支援教育>

- ・登校支援については、リソースルームを活用し、不登校対応巡回教員や校内別室支援員等による個別の支援を進めました。昨年度より登校日数が増えたり、オンライン等で授業に参加したりする児童・生徒が増加しました。
- ・日本語指導については、児童・生徒に対し日本語学級や巡回指導員の支援を進めました。当該児童・生徒は、友達とのコミュニケーションが増え、学校生活を安心して過ごせるようになってきました。
- ・特別支援教育については、校内委員会を定期的に開催して情報共有を進め、個に応じた支援を行いました。一人一人の特性に応じた指導を進めるとともに、関係機関との連携等が図られました。

② 9年間の系統的な指導による言語能力(言葉の力)の育成

- ・全ての教員が、授業において「自分の考えの言語化」「伝え合うことによる学び合い・鍛え合い・高め合い」「学びの振り返りの位置付け」を共通実践し、言語能力を育成する授業改善を全教科で進めました。
- ・道徳科と国語科の研究授業・研究協議の実施や年間3回の授業観察週間の設定により、指導法の工夫が共有され、言語活動を計画的に位置付ける授業が増加しました。
- ・各学年の特別活動等における言語活動の実践をまとめ、本校独自の9年間の系統的な言語活動の在り方を追究しました。次年度は系統的な共通実践を進め、児童・生徒の言葉の力を計画的に育む予定です。

③ 社会参画意識の醸成と実践力の育成<児童・生徒の意見を活かす>

- ・学校運営協議会主催のサマーフェスタにおいて、児童・生徒会代表者の意見を聞く場を設け、子供の声を生かした取組を実施しました。
- ・「生活の決まり」について、児童・生徒会の9年生役員が中心になり、学校生活をより良くすることを目的として、各学年・各学級の意見を聞きながら文言の見直しを図りました。次年度から、児童・生徒が考えた新たな「生活の決まり」がスタートします。

④ 挨拶の励行と、いじめを許さない学校づくり

- ・朝会で、挨拶の重要性やいじめは絶対にだめであることを浸透させる校長講話を計画的に行いました。
- ・全校挨拶運動を定期的実施することで、挨拶する態度の醸成や声を出し合う雰囲気づくりを行いました。
- ・「いじめ対策委員会」を毎週開催し、各学年の状況を共有して早期解決や全校での見守りにつなげました。

⑤ 部活動改革と地域活動への参画の推進

- ・八王子市の方針に基づき、令和9年度までの部活動改革ロードマップを作成して学校HPに公開するとともに、部活動改革に関する説明会を2月に開催し、保護者・地域に学校の方向性を周知しました。
- ・本校が目指す「放課後の過ごし方改革」となるよう、学校HPに八王子市や東京都等のイベントを掲載するコーナーを設置し、児童・生徒が様々な活動にチャレンジできるようにしました。

(2) 教育目標の実現に関して

◇学力の保障・向上 ～9年間の学びの系統性・連続性を意識した授業の構築～

- ・市や国の学力調査結果から児童・生徒の学習状況を把握し、一人一人に応じた指導を進めました。
- ・授業づくりにおいて、児童・生徒の興味・関心を高めるために一人一台端末を活用した指導の工夫や異学年交流を位置付け、学力の定着に努めました。
- ・Ⅰ期は家庭学習の習慣を身に付けさせること、Ⅱ期、Ⅲ期は教科担任制による一人一人の力を確実に伸ばすことを重視した授業を実施しました。
- ・英語、漢字、数学検定等各種検定や各教科における各コンクール応募や参加等を奨励し、学びへの意欲を高めるとともに、地域と連携して放課後や長期休業日等の学習環境を整えました。

◇豊かな心の醸成 ～豊かな人間関係を築く力や社会性の育成～

- ・縦割り班活動「わくわく清掃」や「わくわく遊び」、児童・生徒会を中心とした委員会活動等において、発達段階に応じた役割と責任を自覚させ、自主的な活動を支援しました。
- ・社会貢献や思いやりをテーマとした道徳科授業と防災学習を位置付けた道徳授業地区公開講座を実施し、自分と地域を大切に作る心や態度を育みました。
- ・9年間の成長を踏まえたキャリア教育全体計画に基づき、地域訪問、社会科見学、職業調べ、職場体験等を計画的に実施し、主体的に自己決定や進路選択ができる資質・能力を育成しました。

◇心身の健康・鍛錬 ～心理的安全性のある集団づくりにより一人一人の居場所をつくる～

- ・心理的安全性のある学級・学年経営を行うことにより、児童・生徒の居場所づくりや一人一人が快適に学校生活を送る教育環境を整えました。
- ・「子ども見守りシート」や「ふれあい月間」を活用し、いじめを許さない学校風土を醸成するとともに、いじめと思われる状況を発見した際には、いじめ対策委員会を活用して情報共有し、保護者や関係機関と連携して組織的かつ迅速な対応を進めました。
- ・スクール・カウンセラーを中心とした教育相談体制を充実させ、スクール・ソーシャルワーカーや教育相談、外部機関とも連携し、一人一人に応じた心のケアを進めました。

◇学びを支える教職員力・学校力の強化

- ・夏季休業期間やデータベースの活用等によって校内OJTを活性化し、若手教員の人材育成を図るとともに、全教職員の研修受講を奨励して「学び続ける教師」の体現を推進しました。
- ・ホームページに学校の様子を毎日アップし、教育活動を広く情報発信しました。
- ・複合施設としての特色を生かし、図工や生活科等で子安保育園や学童保育所との連携・交流を図る取組を実施しました。

2 次年度以降の課題と対応策

保護者の皆さまからの学校評価結果を踏まえ、本校の特長を生かした教育活動を一層推進するとともに、以下の取組を通して学校に対する理解促進に努めます。

◆発達支持的生徒指導による一人一人の可能性を応援する指導の充実

- ・いじめ対策委員会や校内委員会、学年会などを定期的開催し、いじめを許さない学校づくりと一人一人の発達を支える生活指導を組織的に行います。また、その取組を広く周知していきます。

◆9年間の系統的な指導による言語能力の育成に基づく学力の保障・向上と学習評価の説明の推進

- ・9年間を見通した計画的・系統的な言語活動を実施し、児童・生徒の言語能力を着実に高めます。また、学習評価の分かりやすい説明に努めます。

◆SDGsの取組を基盤とした社会参画意識の醸成と実践力の育成

- ・社会的な課題解決を目指す実践力を育むために、全学年でSDGsの取組を進めます。